週刊　たいまつ

△發行所…秋田縣横手町本町　たいまつ新聞社
△印刷所…秋田市下米町　秋田中央印刷株式會社
△發行責任者…武野　武治
△定　價…一部　三圓

青年は次第に立直る
胸に友愛のしるしを

どうにもならない足ぶみの狀態におちていた青年運動に再び生氣がかよいはじめた、終戰後ハヤリのように各地に續出した青年團體、文化團體は一時の派手な活動もどこえやら、昨年の四月選擧が終つたころから急に衰えだして、近ごろでは看板の立腐れにおわつているものが多い、そうなつたについては資金難とか、感情や利害の對立とか、色々のこまかい事情があるが、深い原因として二つのことがあげられる。一つはちようどこの時期においてインフレが加速度的にかまり、みんながそれぞれの暮しに追われ前途に對する希望なり設計なりをほとんどもてなくなつたこと、も一つの原因は農民運動や勞働運動にもあてはまることだが、終戰直後の急激な發展はいわば古い日本の死體を養分として一種の狂いで、民衆なり青年なりの眞に自分たちの自身の内面の成長に根ざしたものでなかつたことだ。從つて芝居熱がさめてしまえば『青年會はつまらない』ということになり、青年組織から出た若い町内における技術の交流、篤農名工のコツの公開などを重大な要素となつていること、商工業を苦しい性格づけられた地域青年會としては中立の立場で立會うことではすまされぬことであり、こゝにまじめな苦惱がそゝがれている。仙北郡高梨村青年會では『生活の實態をとうして町治的理解を深めてゆく』といつている。一黨一派の道具となることなく自らの生活體驗をとうして政治的判斷力を高めてゆこうというのである。この切望、この現實をいかにして地域青年運動の中で解決してゆくか、それは單に行司役をつとめることとはやめてます少數でも結束の固い同志のあつまりとして出直そうとする動きが歴倒的につよい。

呼び出される長は被告のごとく解答者席にたつまり町政の質問をみずから代辯して論告者の立場をとり、集つた町民約四百名はこれを横にしみこんでおらず、第一かんじんの町政むすかしいを十分に自覚していないからだ。今後のための指針として次のようなことが事實によつて示された。

◇町政を批判するにはどんな立場で何を目ざしてそれをするのかをハツリさせねばならぬ。現在の町政當事者では駄目だから陣容を改めようとするのか、それとも人間は今のまゝでよいがやり方を改めさせようとするのか、それによつて批判會の運營方法も全くちがつてくる。この點があいまいだと互いにあげ足となつてしまう

◇議論はあくまで具體的な建設意見で爭わねばならぬ。單に『あれはどうした、これはどうした』とアラを探すだけだつたり『申しわけありません、今後は注意します』とモミ手をするだけでは必ず結論がウヤムヤになつてしまう。

◇政治は力である。從つて行政事務擔當者のことをあれこれいうだけでなく從つても結果において町民が何かオモチヤあつかいにされた原因はつまり町政一切の主人公は町民であるということが町政を論じる者にもほんとうに理解されていないからだ。

◇民主主義という言葉だけを萬能コウヤクのように振りまわしたり、社會運動を飯くい道具にしたりする新ボスの擡頭を警戒しなければならぬ。公然の敵よりも味方づらをした身中の虫こそ最もタチの悪い民衆の敵である。

◇民主主義という言葉だけを萬能コウヤクのように振りまわしたり、社會運動を飯くい道具にしたりする新ボスの擡頭を警戒しなければならぬ。公然の敵よりも味方づらをした身中の虫こそ最もタチの悪い民衆の敵である。

政局展望★佐々弘雄

この論稿は二月初に寄稿されたものであるため地はほとんどないとみなければならぬ。けれども連合いた點では少しもまちがいがなく、反つて今の成行きを理解させるのに役立つと思いますので原文のまゝにしておきます

ことしの日本政治の一はん大事な課題は講和にある。この講和にどうして臨むかが政局最大の問題といわなければならぬ。むろん無條件降伏による講和だから我方から注文をつける餘

ガンヂーさんはなぜ死んだ？

世界の動き

ガンヂーさんはただの偉人や英雄ではありませんでした。凡人を英雄にすることのできる人でした。そのガンヂーさんがなぜ死んだ？

十五歳の過激な印度教徒にピストルをうたれたから死んだ。それはその通りですが、ほんとうの下手人は實にインドそのものだといわねばなりません。

一世紀近くも英國に支配されてきた印度は昨年八月十五日をもつて主權を回復しました。しかしその獨立は單純に喜ぶことのできない問かが割切れないものを含んだものでした。もともと印度は種族、宗教、言語が實に多種多樣にわかれており、英國のいわゆる「分割統治政策」はその事實の上に營まれたものでした。

いかにして印度が一つの印度になるか、これこそ四億民衆の命がけの問題だったのですが、榮ある獨立の日にもとうとうこの念願を實現できないで御承知のようにに印度教徒の印度連邦と回教徒のパキスタンとにわかれ、一つの國家が併立する形になつたのです。

流血の悲劇は獨立の喜び思いが印度解放のかげにもあつたのです。どうしてこの日からまもなくひろがりました。同胞相打つの動亂のために人口十二萬のような悲劇が起つたのでしょうか。解放に裏づけられない統一は强壓にすぎずして、第六、三號の記事）でした。印度の統一を生涯の大悲願としたガンヂーさんは斷食までしていきめましたが、効き目はありませんでした。そしてついに印度を救おうとしたガンヂーさんは印度の苦惱を一身にせおつて印度のために殺されてしまつたのです。

こんどこそ平和の日を送れると喜んだ中國の民衆は國共の爭いで言いようのない苦みをなめていますが、その苦みを現して一中國人は「勝利、勝利、勝つて利あらず、和平、和平、和して平かならず」と叫んだそうです。この切々たる嘆きの中に、